

平成 27 年 11 月 13 日
教育部美術博物館

馬越長火塚古墳群の国史跡指定について

国の文化審議会（会長 宮田 亮平）は、下記の文化財建造物の登録について 11 月 20 日（金）に文部科学大臣に答申する予定です。

事前発表（資料提供） : 11 月 13 日
報道解禁 ラジオ・テレビ : 11 月 20 日 午後 5 時
新聞 : 11 月 21 日 朝刊から

記

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1. 名 称 | まごしながひづかこふんぐん
馬越長火塚古墳群 |
| 2. 員 数 | 1 件 |
| 3. 所在の場所 | 豊橋市石巻本町字紺屋谷 1 8 - 2 外 |
| 4. 指定の面積 | 1 5 6 8 3 . 6 6 m ² |
| 5. 土地所有者 | 豊橋市・個人（19名） |

※指定の周知を目的に、下記の行事を行います。

- 11 月 22 日（日） 馬越長火塚古墳群現地説明 10 : 00 ~ 15 : 00（随時）
於：馬越長火塚古墳群（石巻本町）
- 11 月 21 日（土）～29 日（日） 「重要文化財愛知県馬越長火塚古墳出土品」特別展示
於：豊橋市美術博物館
- 11 月 22 日（日） 豊橋市文化財センター特別開館（「馬越長火塚古墳群展」開催中）
於：豊橋市文化財センター（松葉町三丁目 1 番地）

参考．豊橋市内の指定史跡

- ・国史跡 瓜郷遺跡（昭和 28 年 11 月 14 日指定）
嵩山蛇穴（昭和 32 年 7 月 1 日指定）
- ・県史跡 前芝の灯明台（昭和 40 年 5 月 21 日指定）
権現山古墳（昭和 48 年 4 月 4 日指定）
- ・市史跡 神山古墳（昭和 48 年 3 月 12 日指定）
萬福寺古墳（昭和 50 年 1 月 21 日指定）
一里山の一里塚（昭和 50 年 11 月 8 日指定）
松葉塚（昭和 59 年 2 月 24 日指定）
宮西古墳（昭和 61 年 3 月 28 日指定）
二川宿本陣（昭和 62 年 11 月 26 日）
嵩山一里塚（西塚）（平成 24 年 8 月 1 日）
苗畑 5 号窯跡（平成 26 年 4 月 24 日）

馬越長火塚古墳群の概要

立地

馬越長火塚古墳群は、豊川流域の東側の段丘上に所在する豊橋市石巻地区にある。馬越長火塚古墳、大塚南古墳、口明塚南古墳の3基からなっており、各古墳は西から東に入り込む谷によって挟まれ、西に向かって緩やかにさがる段丘上に位置する。

調査歴

馬越長火塚古墳は、昭和43年（1968）に在野の考古学研究者らによって石室の調査が行われ、金銅装馬具など優れた副葬品が出土した。昭和55年には愛知県教育委員会が、平成17～21年には豊橋市教育委員会が、古墳の保存と活用を目的に発掘調査を行った。

また大塚南古墳は平成20年、口明塚南古墳は平成21年に、豊橋市教育委員会が発掘調査を行った。

調査の成果は、平成24年に報告書にまとめられ、公表されている。

現時点での馬越長火塚古墳群関連の文化財指定

県史跡 馬越長火塚古墳 昭和56年11月20日指定

重要文化財 愛知県馬越長火塚古墳出土品 平成24年9月6日指定

馬越長火塚古墳について

馬越長火塚古墳は墳長70mの前方後円墳であり、墳丘は、地山を削りだした下段と、盛り土をした上段の2段築造である。墳丘はほぼ全面葺石で覆われている。上段の規模は後円部の径が31m、高さが5.5m、前方部が長さ31.5m、くびれ部の幅が15m、くびれ部付近の高さが3.5mとなっている。上段の後円部中央が著しく高まっており、かつ前方部が低く細長いという特徴は、西日本各地の6世紀後葉の首長墓にいくつか認められる。

後円部の南側には全長17.5m以上となる横穴式石室が開口しており、前庭と羨道、玄室とで構成されている。前庭長は5.75m以上、羨道と玄室の長さ11.75m、石室最大幅2.35m、最大高2.95mであり、羨道と玄室は立柱によって区別され、さらに玄室も立柱で前後2室に分けられる複室構造となっている。玄室の平面形が胴張りを呈し、天井石の縦断面形は連続する孤状をなし、奥壁は1枚石が使用されていることは、典型的な三河型の横穴式石室であることを示す。

石室内からは、鉄地金銅装馬具や豊富な玉類、大量の須恵器が発見されている。馬具は新羅のものを祖形として列島で生産された初期段階の棘葉形杏葉である。

玉類はガラス製トンボ玉や、大型の琥珀製棗玉、金銅製空玉がある。トンボ玉の中には、2色のガラスを重ねて巻き付けた重層玉のほかに、斑点文の切子玉や線状文と斑点文の複合した丸玉など、国内では例をみないものが見つかっている。古墳が築かれてから半世紀ほど後に行われた墓前儀礼に伴う須恵器群も前庭で発見されている。これらはその他の多様な副葬品とともに平成24年に重要文化財に指定されている。

出土した馬具などから、馬越長火塚古墳は6世紀末葉に築造されたと考えられている。同時期において、東海屈指の規模を有する前方後円墳である。

大塚南古墳・口明塚南古墳について

大塚南古墳は直径19mの円墳、口明南塚古墳は直径23mの円墳である。それぞれ改変は受けているものの、残存状態は比較的良好である。墳丘の中央には南に開口するとされる横穴式石室が存在し、天井石は失われているが、石室の下部は比較的良好に残っている。

大塚南古墳からは鉄地金銅装花形鏡板付轡と雲珠・辻金具が発見されている。また口明南塚古墳からは金銅製毛彫り馬具片が出土している。それぞれの古墳は、馬具と一緒に出土した須恵器の年代から7世紀初頭と7世紀前葉に築造されたと考えられている。

古墳群の評価

馬越長火塚古墳群は、6世紀末葉から7世紀前葉にかけて続く首長墓の系譜であると考えられる。

長火塚古墳の墳形及び中央の工房で製作され地方の有力者に与えられたと考えられる金銅装馬具やその他の多様な副葬品から、被葬者は大和王権との関わりが深い人物であったと考えられる。一方、横穴式石室は典型的な三河型のものであり、被葬者は三河地方の有力者であったことも推定される。

文献によれば、6世紀の東三河の豊川流域には「穂国」が存在していたとされており、馬越長火塚古墳群は穂国を統治していた穂国造の代々の墓であると考えられる。本古墳群は、東海地方の古墳時代後期から終末期にかけて、3世代にわたる首長墓系譜の変遷を追うことができる事例として重要である。



馬越長火塚古墳群（全景）



馬越長火塚古墳群（馬越長火塚古墳 横穴式石室）



馬越長火塚古墳群（大塚南古墳）



馬越長火塚古墳群（口明南塚古墳 調査風景）